

モスピラン® 粒剤

(MOSPILAN G)

登録番号 第19114号
 種類名 アセタミプリド粒剤
 acetamiprid
 殺虫剤分類 4A
 性状 淡灰色細粒
 有効年限 5年

有効成分 アセタミプリド 2.0%
 毒性 普通物(毒劇物に該当しないものを指している通称)
 包装 1kg×12袋、3kg×6袋

■特 長

1. 新規の骨格(ネオニコチノイド系)を持ち、作用機作が既存剤と異なるので、従来の薬剤に抵抗性の発達した害虫にも有効です。
2. セル苗に対し、育苗期後半の株元処理ができ、省力的です。
3. 定植時の土壌処理により、コナガ・アオムシ・アブラムシ・スリップスの発生を長期間抑えます。
4. ミツバチ・マルハナバチに対して影響の少ない薬剤です。
5. 粒剤タイプの薬剤なので、天敵類にも悪影響が少ない薬剤です。

■適用害虫名及び使用方法

(2020年11月25日現在)

作物名	適用害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	アセタミプリドを含む農薬の総使用回数	使用方法
キャベツ	コナガ、アオムシ	1～2g/株	定植時	1回	6回以内 [粒剤の定植時までの処理は1回以内、散布および定植後の株元散布は合計5回以内]	植穴土壌混和
	コナガ、アオムシ アブラムシ類	0.5～1g/株	定植前日～定植当日			株元散布
	ハイマダラノメイガ ハスモンヨトウ	0.5g/株				
	アブラムシ類	1～2g/株				
非結球メキャベツ	ハイマダラノメイガ	1g/株	定植時		3回以内 [土壌混和は1回以内、散布は2回以内]	植穴土壌混和
はくさい	コナガ、アオムシ アブラムシ類	0.5g/株	定植前日～定植当日	1回	4回以内 [粒剤の定植時までの処理は1回以内、散布および定植後の株元散布は合計3回以内]	株元散布
	ハイマダラノメイガ					
だいこん 非結球あぶらな科 葉菜類 [チンゲンサイ] を除く	コナガ アブラムシ類	3kg/10a	は種時		1回	播溝土壌混和
チンゲンサイ	キスジノミハムシ	0.5g/株	定植当日	1回	2回以内 [粒剤の処理は1回以内、散布は1回以内]	株元散布
	アオムシ		定植前日～定植当日			
	コナガ、 アブラムシ類		は種時			播溝土壌混和
ひこしまはるな	アブラムシ類	1g/株			1回	
ブロッコリー	コナガ	1～2g/株	定植時	1回	4回以内 [粒剤の定植時までの処理は1回以内、散布および定植後の株元散布は合計3回以内]	植穴土壌混和
	アオムシ アブラムシ類	1g/株				
	ハイマダラノメイガ	0.5g/株	定植前日～定植当日			株元散布
	コナガ、アオムシ アブラムシ類	0.5～1g/株				

殺 虫 剤 モスピラン粒剤

作物名	適用害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	アセタミプリドを含む農薬の総使用回数	使用方法		
カリフラワー	コナガ、アオムシ	0.5～1g/株	定植前日～定植当日	1回	4回以内 〔粒剤の定植時までの処理は1回以内、散布は3回以内〕	株元散布		
きゅうり	アブラムシ類		定植時					
かぼちゃ		0.5g/株	定植後、ただし収穫30日前まで					
とうがらし類 (ししとうを除く)	アブラムシ類	1g/株	定植時				3回以内 〔粒剤の定植時までの処理は1回以内、散布および定植後の株元散布は合計2回以内〕	植穴土壌混和
			は種時					播溝土壌混和
ししとう	コガネムシ類幼虫	1g/株	定植時				2回以内 〔定植時の土壌混和は1回以内〕	植穴土壌混和
ピーマン	アブラムシ類	0.5g/株	定植前日～定植当日				3回以内 〔粒剤の定植時までの処理は1回以内、散布、くん煙および定植後の株元散布は合計2回以内〕	株元散布
	アブラムシ類 コナジラミ類							
なす	アブラムシ類	0.5～1g/株	定植時				4回以内 〔粒剤の定植時までの処理は1回以内、散布、くん煙および定植後の株元散布は合計3回以内〕	植穴土壌混和
	コナジラミ類							
	コガネムシ類幼虫 ミナミキイロアザミウマ	1g/株						
すいか	アブラムシ類	0.5～1g/株	定植前日～定植当日	3回以内	株元散布			
	コナジラミ類	1g/株						
トマト ミニトマト	アブラムシ類	0.5g/株	生育期ただし、収穫前日まで	3回以内	株元散布			
	コナジラミ類 トマトハモグリバエ アブラムシ類	1g/株	定植時					
いちご	アブラムシ類	0.5～1g/株	生育期(定植30日後まで)ただし、マルチ被覆直前まで	1回	3回以内 〔粒剤の株元散布および土壌混和は合計1回以内、散布およびくん煙は合計2回以内〕	株元散布		
		0.5g/株	定植時					
	コナジラミ類 コガネムシ類幼虫	1g/株				植穴土壌混和		

作物名	適用害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	アセタミプリドを含む農薬の総使用回数	使用方法
レタス	ナモグリバエ オオタバコガ ヨトウムシ	0.5g/株	定植前日～ 定植当日	1 回	4 回以内 〔粒剤の株元散布は 1 回以内、散布は 3 回以内〕	株元散布
	アブラムシ類	0.25～0.5 g/株				
非結球レタス	ナモグリバエ オオタバコガ ヨトウムシ	0.5g/株	2 回以内 〔粒剤の株元散布は 1 回以内、散布は 1 回以内〕			
ばれいしょ	アブラムシ類	3～6 kg/10a	植付時		4 回以内 〔植付時の土壌混和は 1 回以内、植付後は 3 回以内〕	植溝土壌混和
わけぎ あさつき	ネギアザミウマ ネギハモグリバエ	6kg/10a	は種時		4 回以内 〔土壌混和は1回以内、 散布は3回以内〕	播溝土壌混和
			植付時			植溝土壌混和
ねぎ		0.25～0.5 g/株	定植前日～ 定植当日		3 回以内 〔は種時の土壌混和 は1回以内、植付時 の土壌混和および 定植当日までの株元 散布は合計1回以内〕	株元散布
		6kg/10a	は種時			播溝土壌混和
			植付時			植溝土壌混和
ぶどう		ブドウネアブラムシ 〔ただし、 6kg/10a以下〕	30g/m ² ただし、 6kg/10a以下		収穫14日 前まで	3 回以内
かんきつ (苗木)		アブラムシ類 ミカンハモグリガ	10～20 g/樹	育苗期	1 回	株元散布
えだまめ		アブラムシ類	3kg/10a	は種時	4 回以内 〔は種時または定植時 の土壌混和は合計1回 以内、散布は3回以内〕	播溝土壌混和
			1g/株	定植時		植穴土壌混和
ふき		モモアカアブラムシ コナジラミ類	2g/株	収穫90日 前まで	3 回以内 〔粒剤の株元散布は 1 回以内、散布および くん煙は合計2回以内〕	株元散布
こんにゃく	ワタアブラムシ	3kg/10a	培土時(出芽期)	1 回	株元土壌混和	
セルリー	アブラムシ類 ナモグリバエ	0.5g/株	定植時	1 回	2 回以内 〔定植時の土壌混和 は1回以内〕	植穴土壌混和
さといも	アブラムシ類	3～6 kg/10a	植付時	1 回	1 回	植溝土壌混和
ストック	ハイマダラノメイガ	0.5g/株	育苗期	5 回以内	株元散布 植穴土壌混和 植溝土壌混和	
きく	アブラムシ類	0.5～1g/株	生育初期			
	アザミウマ類	1g/株	定植時			
	ハモグリバエ類					
	ミカンキイロアザミウマ	3～6 kg/10a	発生初期	5 回以内 (樹幹注入は1回以内)	株元散布	
つつじ類	ツツジグンバイ	3～6 kg/10a	発生初期	5 回以内 (樹幹注入は1回以内)	株元散布	
たばこ	アブラムシ類	0.5～1 g/株	定植時	1 回	3 回以内 (定植後は2回以内)	株元散布
		0.25g/株	育苗期後半			

△ 効果・薬害などの注意

1. キャベツ、ブロッコリー、非結球あぶらな科葉菜類、セルリーに使用する場合は、薬害発生のおそれがあるので使用量を厳守し、根に直接ふれぬよう、施用後土壌とよく混和してから植付けてください。
2. かんきつに用いる場合は、今期に収穫見込みのない苗木に対して株元処理し、処理後は軽く散水してください。なお、本剤を処理してから効果を発揮するまでにある程度期間を要するため、対象害虫の発生前に予防的に処理してください。
3. かぼちゃに対して、は種時に播溝土壌混和で使用する場合は、栽植密度に合わせ播溝に株当たり1gに相当する量を均一に施用した後土壌混和してください。
4. 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにしてください。
5. 使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けるようにしてください。
6. 適用作物群に属する作物またはその新品種に初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けるようにしてください。

△ 安全使用上の注意 

7. 使用の際は、農薬用マスクなどを着用してください。作業後はうがいをしてください。
8. 街路、公園等で使用する場合は、使用中及び使用後（少なくとも使用当日）に小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜などに被害を及ぼさないよう注意を払ってください。

治療法：本剤の中毒に対しては、動物実験で、L-メチオニン製剤、グリチルリチン製剤及びグルタチオン製剤の注射投与が有効であるとする報告もあります。

水産動植物への影響：水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

保管：密封し、直射日光をさけ、食品と区別して、小児の手の届かない冷涼・乾燥した所に保管してください。